平成30年度

佐那河内小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

小中9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
堀井晴美	校長：大島千文　　教頭：松岡利光 教務主任：星山理恵　　特別支援コーディネーター：和田久美子 低学年推進員・算数主任　西谷基子 高学年推進員・国語主任・人権教育主事：東條輝江

校長

大島　千文　印

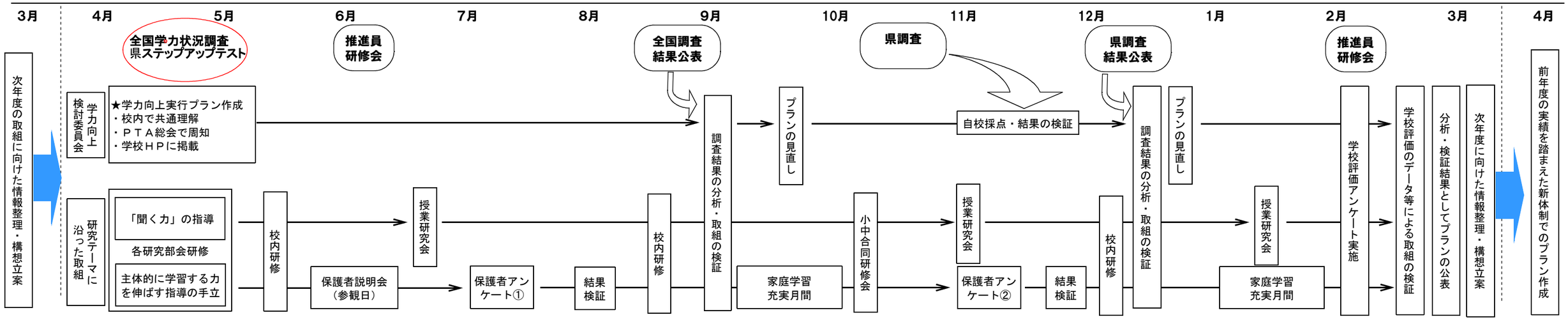
（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	ステップアップテストの結果から，国語科の「言語事項」，算数科の「知識」においては，一定の成果が見られる。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け，生活場面や活用問題で使うことができる。 ・語彙数が増え，正しい言葉や漢字で文章を読んだり書いたりできる。	・各教科の単元テストで，正答率を80%以上にする。 ・ノートや日記で適切な語彙や漢字が使えているか点検する。	取組の継続	・10分間読書や朝のドリル学習で漢字小テストや計算の反復練習を行うことにより，基礎基本の定着が図れつつある。	・日記や作文などで適切な語彙や漢字を使えるようになりつつある。 ・単元により平均点にばらつきがあるが，概ね正答率は80%以上ある。
課題	学力に個人差がある。 漢字やローマ字を確実に覚えていなかったり，漢字を文章中で適切に使えなかったりするところがある。 身に付けた知識技能を活用することができていない。	**具体的方策（教員の取組）**	**取組指標**		**評価**	**次年度における改善事項**
		・朝のドリルタイムで漢字・計算など繰り返し行う。 ・ノート・日記指導を充実させるとともに，10分間読書や週末読書を奨励する。 ・構造的な板書を心がけ，言語環境を整える。	・朝の活動時間を1週間で1単位時間確保する。 ・優れたノートや日記を紹介する。 ・長期休みの補充学習の継続。		B	・基礎基本の定着には，毎日の反復練習が重要であることがかくにんできたので，引き続き、朝のドリルタイムに取り組む。 ・身に付けた基礎・基本を活用する問題に取り組ませる。

（２）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	既習内容を基にして，新しい考えを導き出したり表現したりできる児童が多い。自分の考えを文章で表現する力がついてきた。	・目的や相手を意識し，根拠を明らかにしながら自分の考えを積極的に話したり書いたりできる。	・各教科の振り返り活動で，「自分の考えを発表したり書いたりして伝えることができた」と答える割合を70%以上にする。	取組の継続	・グループ内で，発散・収束させていくホワイトボードミーティングの手法を取り入れた授業を実践している。 ・新聞を教材として活用したり並行読書を取り入れたりしている。	・全体的に表現力はついてきている。しかし，目的や相手を意識し，根拠を明らかにして考えをまとめたり伝えたりするまでには至っていない。
課題	理由づけをする，具体例をあげる等，筋道を立てて説明したり文章を書いたりすることに課題がある。要点を整理し，まとめる力に個人差がある。	**具体的方策（教員の取組）**	**取組指標**		**評価**	**次年度における改善事項**
		・学習活動の中で，自分の考えを筋道立てて話したり書いたりする時間を設ける。 ・作文読本を効果的に活用する。 ・新聞を教材として活用したり，国語科で並行読書を取り入れたりして，様々な文章や資料を読む機会を充実させる。	・ホワイトボードミーティングの手法を取り入れたり，ディベート，グループでまとめて発表する機会を増やしたりする。 ・学期に2回程度，作文読本に数名ずつ投稿する。 ・月2回朝の学習時にNIEを実践する。		B	・思考力・判断力の向上のため，ホワイトボードミーティングの手法をさらに活用する。 ・NIEの充実を図る。 ・授業の中で，自分の考えを筋道立てて書いたり話したりする練習を行う。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	落ち着いて話を聞き，真面目な学習態度の児童が多い。与えられた課題について，積極的に取り組んでいる。	・自主的に学習に取り組み，自分自身を向上させたいという意欲をもつ。	・各教科の振り返り活動で「自分から進んでめあてをもって学習している」の割合を70%以上にする。	取組の継続	・自主学習の仕方を示したり，生活がんばりカードで自分の生活時間を見直しさせたりしている。 ・めあての提示，振り返りの時間の確保に努めている。	・充実した自主学習ノートが増えてきた。 ・週末読書が習慣化し，様々なジャンルの読書に取り組む児童が増えてきた。
課題	自ら課題を見つけて，見通しをもって取り組むことが苦手である。向上心をあまりもたず，現状に満足している児童が多い。	**具体的方策（教員の取組）**	**取組指標**		**評価**	**次年度における改善事項**
		・めあての提示とともに考える時間や振り返りの時間を必ず設定する。 ・「家庭学習の手引き」を配布し，学年に応じた家庭での学習時間を確保できるように家庭と協力して取り組む。	・学びの質が高まるように授業改善に努める。 ・計画的に家庭学習時間の調査を行い，保護者へ家庭学習の重要性の啓発を行う。		B	・単元計画をしっかりと立てた上で，目標達成のための授業構成をする。 ・生活がんばりカードの結果を定期的に家庭に知らせ，さらなる自主学習の向上を図る。

平成30年度　学力向上ロードマップ